

■面倒な人の取り扱い方、

面倒な人からの取り扱われ方

修正： 2023.01.01

投稿： 2023.01.01

面倒な人の取り扱い方



面倒な人からの取り扱われ方

●面倒な人の取り扱い方、面倒な人からの取り扱われ方①

ますますデジタル化が進んでいる今日この頃ですが、
だからこそ、アナログなことを
大切にしたいと思っている次第です。年賀状に
手書きのメッセージと真心を添えて、郵送！

//-----

「私の趣味は残業です！」みたいな人が職場に一定数はいます。
働かない人がいる一方で、いつまでも働き続ける人もいるのです。

働き方改革を受けて、会社もようやく重い重い腰を上げました。
あれから年月も経ち、少しづつではありますが、
全体的に残業は軽減されてきました。が、
それでも一部の人はやたら残業したがります。

「え？ 帰らないんですか？ なぜ？」
「え？ 家に帰ってもやることないって？
いやいや、そんなことないだろ。
だって、お前、家族、いるじゃん！」

と言う話ですが、他にも、「残業すれば収入が増える」とか
「この仕事は今日中に終わらせたいんで」などなど、
残業する・残業したい理由はいろいろあるようです。

しかし、そういう人が「会社に尽くす人」として、
会社から高く評価されているのもまた事実です。管理職や役員は、
仕事が大好きという人が多い、と言うのは当たり前のことです。

よく「楽しんでそれをやる人には勝てない」と言われていますが、
仕事も同様です。嫌いな勉強は全然頭に入りませんが、
好きなことであればいつの間にか覚えてしまうものです。

仕事も好き嫌いでこなす時代になりつつある、と言うことです。
政府の指針である「働き方改革」を真に受けて、
ほどほどに仕事に取り組もうとする(若い)人は、残念ながら、
仕事が好きで精を出し成果を上げる人にはさすがに勝てません。

働き方改革であろうと何であろうと、
働いて成果を上げた人が評価されることに変わりはないのです。

(続)

//=====//

●面倒な人の取り扱い方、面倒な人からの取り扱われ方②

人を知らない人ほど、
「他人も自分と同じようなものだろう」
と何となくそう考えてしまうものです。

ゆえに、自分ができることは、
他の人も同じようにできるのだと
勘違いしてしまうものです。例えば、

「自分はこの仕事を 1 カ月で覚え、かつ、
自分はこの仕事を 3 日で完了できる」

となれば、その人にとってその仕事は、

「1 カ月で覚えるべき仕事であり、
3 日で完了させるべき仕事」という認識になります。

しかし実際には人によって個体差があり、
その仕事を 1.5 カ月で覚える人もいれば、
完了までに 1 週間かかる人もいます。すると、

「どうしてお前は期限までに作業が完了できないんだ！」

と怒るわけですが、作業している側からすると、

「だって個体差なんだもーん！」という話です。そして、

「努力が足りん！」と行き着くところは根性論となります。

そんな気持ちも分からなくはないですが、

どんなに圧力をかけてもできないものはできないのです。

それどころか恨みを買いかねません。

個体差を無視する職場ほど、人を見ず仕事を見て、

「ここでは結果がすべてだ！」などと言い出し、

「終わるまで帰るな！」のブラックな風土になっていきます。

自分ができるからと言って、

目の前の人も同じようにできると考えてはいけないです。

自分が仕事熱心だからと言って、目の前の人も

同じように熱心に仕事するというわけではないのです。

これは、自分が相手のことを好きだからと言って、

相手も自分のことが好きとは限らないことと同じです。

(続)

//=====//

●面倒な人の取り扱い方、面倒な人からの取り扱われ方③

何をやるにしても、評価されるまでには時間がかかるな～

なんて思っている今日この頃です。

過小評価されていることが将来性なのだそうで、

でも言われてみれば確かにそうですね。

//-----

さてさて本題ですが、

「**働けないから働きません！**」と主張する
お年寄りな社員が部下にいたらどう接しますか？

長年会社に尽くしてきたものの、
年を取るにつれて、徐々に成果を上げられなくなってしまい、
今では人並みに仕事をこなすことすらできなくなつた、
と言う社員がいます。

アスリートの世界なら、
成果を上げられなくなると容赦なく戦力外通告されます。
そして、**年齢に比例して仕事する能力が無くなる**のは、
一般の会社でも同じことです。

だからと言って「**役に立てないなら去れ！**」と言うわけにもいきません。
60才を定年としていても、本人が望めば、
65才まで雇用しなければなりませんし、
70才までの雇用が努力義務になっています。
今までの流れからしてそのうち義務化されそうですが。

長年会社に尽くしてきたわけですから、
後から入社した若い人に指示されて素直に従うわけもなく、
仕事内容を丁寧に説明しても思うように仕事が進まず、
扱いに苦労しているそうです。

それでも、周囲のフォローで何とか仕事は回っているとのことです。
雇用義務の年齢の引き上げに伴い、年金の支給される年齢も
引き上げられていますが、依然として問題は残り続けたままで。

結局、会社は、**給料**として払うのか、
税金として国に払って社会保障に使われるかでしかなく、
どっちにしろ金は流れるわけであり、であれば、
働けない人を無理に働かせると言うのはいかがなものか、

と疑問に思うところです。

(続)

//=====//

●面倒な人の取り扱い方、面倒な人からの取り扱われ方④

フリーランサーの割合が以前より増えてきました。

元社員がフリーランスになる、と言うケースもしばしばです。

中にはやたらプライドの高い人もいるようですが…。

そういう人の言い分として、

「俺はサラリーマンじゃないんだ！

上司の指示で動くだけの雇われのサラリーマンとは

根本的に働き方も立場も違うんだ！（‘一’）ノ」と言う具合に、

フリーランスであることに、

やたら誇りをもっておられるわけです。

が、…、社長から見れば、

「いやいや、お前しょせん、独立したというだけで、

法人格一つ持つこともできない、

ただのはぐれ者じゃん！（-。-）y-。 。 」

と言う感じに映っています。

それでも捨てきれない謎のプライドがあつて、

「サラリーマンとは違う！間違えないでほしい！（。-`ω-）」と、

締結している契約の名前でマウントを取ろうとする人もいます。

そんなフリーランサーですが、社員から見ると、

ある意味、金で動く雑用係のような面もあって、
誰もやりたがらない嫌な仕事や、
手間のかかる面倒な仕事を、積極的に回していました。

なんてったってお金で解決できますからね。
社員なら駄々をこねますが…。そういう意味では、
サラリーマンよりサラリーマンな感じにも見えるわけです。
と言うわけで、会社としては重宝しています。

つまり、仕事を依頼するサラリーマンからすると、
「あっ！フリーランサー殿でしたか、
ではでは、嫌な仕事はお任せしました～！！(￣▽￣)」
と言う感じです。人を使って人に使われる。いいと思います。

(完)

//=====//

Web サイト：
データアクションサービス ーデータからアクションを起こすー

著者：
時無 和考(Tokinashi Kazutaka)